

継続をモットーに

土曜日担当 理学療法士



開設から本年で25周年を迎えられ、ここに記念誌が発行されますことを、心からお祝いを申し上げます。私はリハビリ・土曜日担当の理学療法士(PT)として、約15年近く、勤務をさせていただいております。八国苑は介護保険導入前から先進的に、福祉のために活躍されてきました。地域の1人暮らしの為に、1990年から白十字ホーム併設型として「高齢者在宅サービスセンター」を実施されました。2000年の介護保険以来、15年を経過し、在宅に向け、国はますますリハビリ・機能訓練の内容を、より実用的に求めてきています。利用者様は病院等でリハビリ・PT経験者も多く、団塊の世代が増える中、機能訓練の内容や目的も多様化が進んでいます。

その人なりの人生や生活の質(QOL)を十分考えた中でプログラムは「どこ迄やれたか？」と毎回見直す状況であります。楽しく、在宅で、自主的に続けられる生活の中で、「できる訓練」を考えて、利用者の希望を取り入れるよう努めています。幸いにも八国苑は、各種ニーズに対応できるようPT以外にもOT・ST等のリハビリ専門職を配置しています。又、音楽リハビリや外出活動等も取り入れ、「いくつもの引出し」で、希望に添えるような体制となっています。私は立つ・歩く等、粗大運動を主に担当する職種ですが、手を使い、話す等人として動物との違いを、「短時間の機能訓練の中

で取り入れられたら」と心がけています。平行棒での歩行訓練時に会話を多くする、背中の丸くなった方に、個人使用ロッカーで体を十分伸ばして手を使って頂く、エレベータ出入り時、自らやることの少ない行先ボタンを押す等、実用面を重視しながら、被介助者の中に「主人公」を演じてもらうよう心掛けています。人は自分の為により、人の為に何か活躍する方が、生き生き見えます。「助かります、ありがとうね！」の声かけで、笑顔が見える方も多くいらっしゃいます。介護が必要な方々がこの制度の対象ですが、できることは残っています。各利用者目標に合わせた具体的メニューは、体の硬さや変形を改善する、その為の準備として、温熱やPTが関節等を緩める、体操を行う、車いす操作や乗り移り、良姿勢保持、筋力維持向上機器を使用し筋力訓練をする等の様々なPT活動をなるべくたくさんできる様にしています。限られた「通所」時間であり毎回とはいかないこともあります。時々、時間を多くかけて、屋外歩行をイベント的に実施することもあります。日常・非日常とリズムをつけることも大事と考えています。

「継続は力なり」の精神のもと、今後も福祉の一端をささやかではありますが、私の体の続く迄、積極的に関与出来たら最高です。地道に実績を積み重ねてこられた八国苑の、次の節目に向け、関係各位とともに、ますますのご発展をご祈念申し上げましてお祝の言葉といたします。

